

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1671500310
法人名	むらい食品株式会社
事業所名	グループホームときわ木の里
所在地	富山市中大浦168-2
自己評価作成日	令和元年11月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和元年11月22日	評価結果市町村受理日	令和2年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

青々とした田園の広がり立山連邦が一望できる自然豊かな場所です。畑には四季折々に育った野菜の収穫を入居者様と職員と一緒に楽しんだり、買い物やドライブ、地域交流サロン等にも積極的に参加しています。家庭的な雰囲気の中で、地域との交流も含め、当たり前な事をできる支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

広々とした敷地に平屋建て9床の施設が2棟、菜園と芝生広場があり、おっとりとした愛犬が出迎えてくれる。リビングからは四季折々の田園風景や冠雪の立山連峰が見え利用者や来訪者の会話がはずむ。法人理念「福祉サービスを必要とする方が、人間としての尊厳を保ちながら地域社会の一員として、心身ともに健やかにその人らしく安心して暮らせるよう支援することを…」と10項目の行動基準を基に、チームワークと話し合いを重視したケアの実践は看取りケアの取組みでも生かされている。「私たちと同じ普通の生活で利用者を支えたい」という管理者の意向は「仕事、プライベート共に充実している」と、職員の満足度も高い。季節や地域行事に合わせた外出、園児や学生、多様なボランティアの来訪は利用者の生活に笑顔と活力を運び、ご家族の安心となり、地域社会の一員としての暮らしが穏やかに刻まれている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と行動基準に基づき業務にあたるよう、月に一度のカンファレンスで皆で唱和し、確認を行っている。	法人理念と行動基準を玄関、フロアに掲示し周知を図っている。月1回のカンファレンスで職員全員で唱和、確認し理念を共有している。	法人理念を基本に事業所らしさのある、具体的にわかりやすい事業所目標、個人目標をもち、日々のケア実践に活かすことに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流サロン、保育園児との交流、大学生、ボランティアの受け入れを行っており、交流を図っている。	人形劇、ハーモニカ、フラダンスのボランティアの方々の行事参加、保育所との相互交流、大学生との関わりがある。上滝地区地域交流サロンでは昼食(有料)つきで演芸も楽しめることから毎回5名が参加し好評である。施設の愛犬の散歩時、外気浴時、菜園での収穫時には近くの住民との会話、交流が日常的にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	統括責任者が民生委員をしており、地域の方に認知症に対する支援の方法を啓蒙している。また施設をしていないので外に行かれた入居者様と近隣の方と関わる事で理解を得られる場合もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度実施し、現状や取り組みの報告をし助言を頂いている。また、運営推進会議の一環として納涼祭にも参加している。	民生委員、地域包括支援センター職員、老人会代表、地区総代、社長、管理者、主任が参加し隔月に開催し、事業報告、現状の課題について話し合っている。玄関に掲示した職員の顔写真は職員の名前と顔がわからないという委員の提案をもとに改善したものである。	ご家族には運営推進会議の案内状送付にとどまらず、面会などを活用し参加を促す工夫に期待したい。また、話し合われた内容、結果報告等について、参加できなかったご家族、職員とも共有を図る取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域福祉課員や地域包括支援センター職員より、情報の収集など協力を頂いている。	運営推進会議に出席している地域包括支援センター職員に困りごとの相談を行い援助をいただく協力体制がある。また、富山市から介護相談員の訪問が隔月であり利用者とのふれあいや会話がある。グループホーム協議会の研修会に参加し情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、カンファレンスや日頃からの意見交換などで話し合いの場を持ち共通理解をしている。施設はせず、言葉等の拘束もないよう努めている。	身体拘束を行わないケアについて、職員が研修会に参加し(8/9)、カンファレンス(8/22)で報告を行っている。毎月のカンファレンスや日々の申し送りや身体拘束、言葉の拘束について話し合い、拘束しないケアの共有に取り組んでいる。玄関施設は夜間のみとしている。	「身体拘束をしないケア」を基本とした取り組みについて、今以上にそのリスクについて職員全員が共通理解ができるわかりやすい書類整備・仕組みづくりに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、職員間での言葉の虐待、無視等ないか試みる機会を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加し、学びを深めている。また、成年後見制度を利用している入居者様もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと時間をとり利用料金、起こりうるリスク、医療連携加算について詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様との時間をとり、入居者様のご報告と、ご家族様の思いを確認している。運営推進会議の場では、ご家族様や地域の方々との意見交換の場となるよう努力している。	面会時に、ご家族の意見・要望を確認している。出された意見要望は業務日誌の面会欄に記録し共有している。また、必要時はミーティングで検討する等、出された意見を運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	トップダウンにせず、意見を聞くように心掛けている。	管理者は日頃から職員と同じ目線に立ち、意見や要望が出しやすい雰囲気づくりを心掛けている。日々の業務やカンファレンスで出た意見で解決できるものはその場で解決、できないものは主任会議や統括責任者に相談、検討し結果を返している。必要に応じて個人面談が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価票を参考にし、個々の努力や実績を評価しており、職員の声や意見を聞くように心掛けている。必要であれば、上司にも相談を行い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足の為、外部への研修への参加は減ってきているが、必要と思われる研修への参加は行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富山県グループホーム連絡協議会事務局を引き受けており、役員と共に研修の企画・立案・運営に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の言葉を聞くようにし、その上でどのような支援がいいのか考え、話し合いを検討している。また、ご家族からの情報も大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来訪された際には、現状報告をしつつ、ご家族の意見や思いを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事例などもお話しし、ご家族が感じておられる不安等について多方面からの支援方法を見極めながら考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生きてこられた道や背景を大切にしながら、生活の場を作るようにしている。喜怒哀楽を共に出来るような関係性を築くよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の情報をご家族からお聞きし、お力をお借りしながら、それぞれに合ったご家族の形を把握し支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や場所に出向いたり、来訪も促すようにしている。友人や知人との交流が途切れないよう支援している。	地元の利用者が多く、上滝地区地域交流サロン「よってかれ家」で友人、知人と交流する機会が多い。また、利用者にとってのなじみの場所や行事に参加する取り組み(桜花見、自宅周辺ドライブ)で、関係継続に努めている。家族や知人が事業所を気軽に訪問できる環境を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性に配慮し、その時の心身の状態を見極め見守りながら、ご本人の持っておられる関係作りの力を引き出しつつ、職員が調整役として支援するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了になった方や、そのご家族にも連絡をとる場合もあり、来訪して下さる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の背景を理解するようにし、その場に応じた対応も心掛けご本人やご家族の思いや希望に耳を傾けている。またご家族からの情報も頂き、思いに寄り添うように努めている。	日々の入居者との関わりの会話から思いや意向をくみ取るように心がけ、業務日誌、介護日誌等に記録しカンファレンスで共有している。地元の方言をつかい一人一人に合わせて胸襟を開き関係が円滑になるよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からセンター方式の様式で情報を頂いたり、ご本人との関わりの中で発見するという意識を持ち、また変化があれば職員で話し合うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のその時の心身の状態を理解し、したい事出来る事を見極めながら、ご本人のペースで一日を過ごして頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のしたい事出来る事を取り入れたり、気づきがあった時には話し合い、共有するよう努めている。	毎月のカンファレンスで利用者の状況報告を行い、介護計画は6か月に1度見直している。ご家族の意見や要望は面会時に聞き取り介護計画に反映し、状態に変化があった場合や緊急時はその都度、本人やご家族の意向を確認し計画の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に書き記し、各担当者が月次報告書を作成し、その内容や課題に対してカンファレンス等で話し合う時間を作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援を柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティアの方々、保育園児等の交流の機会を持てるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望されるかかりつけ医との連携に努めている。緊急時には駆けつけてくださる協力医療関係との関係性も築けている。ターミナルケアも経験している。	本人、ご家族が希望するかかりつけ医としているが、事業所の協力医をかかりつけ医とされる方が多い。他科受診時は原則ご家族に同行して頂くが、必要に応じ書面で情報提供を行っている。緊急時の看護師対応や、看取りを行う体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師とは相談、連絡が取れるようになっている。また、健康管理を行い、状況に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、病院と情報交換をし、対応可能な段階で早期退院ができるよう話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、かかりつけ医、職員が連携を持ち、方針を共有し、変化に応じた対応を行っている。	終末期については契約時に「看取りについての事前確認書」で本人・ご家族の意向を確認し、事業所の「できること」「できないこと」をご家族に説明し了解を得ている。介護日誌、業務日誌、カンファレンス記録で早い段階から状態変化を確認しご家族の意向に沿える支援に取り組んでいる。	社会資源等を活用し「看取りケア」に関するわかりやすい書類の整備や内部研修会等で介護スタッフのスキルアップにつながる取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いのもと、入居者様と共に避難訓練を行っている。日中、夜間想定どちらも訓練している。	年2回、消防署の協力を得て、昼間・夜間想定火災避難訓練を実施している。地震については富士市のハザードマップを事業所のわかりやすい場所に掲示し職員で確認している。3日間分の備蓄品を事業所内に備えている。	火災避難訓練のほか地震や水害においても地域の自治体や運営推進会議の協力を得て、住民参加型の訓練を行える取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を理解し、またその時の状況、気持ちに合わせ、誇りやプライバシーを大切にした対応を日頃から心掛けている。	法人の行動基準を基にプライバシーの確保や人格の尊重などの統一を図っている。利用者の言葉から気持ちの変化を読み取り、誇りや尊厳を損なうことなく過ごせる支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人を理解する事で、希望や思いを表情や態度から読み取ったり、その人に合った声掛けなどをして、自己決定が出来るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る事・したい事を一人ひとりのペースに合わせてして頂けるような環境作りを提供し、希望に沿えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわりや身だしなみなど、決定して頂けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるものを取り入れ、また畑での収穫を共に行ったり、下準備、片づけ等出来る事を一緒に行ったり食べたりと、同じ空間で共有している。	食材は注文で自社から週3回配送されるほか、菜園では毎年10種類もの野菜を栽培、収穫し、ユニットごとに献立を考え調理している。下ごしらえ、調理、盛付け、片付け、食器洗い、お盆・テーブル拭きなど利用者ができることを職員と一緒にしている。四季折々の手作りおやつ、誕生日ケーキ作り、家族との餅つき、外食など食を楽しむ工夫が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量・メニューを記録し、職員が共有しながら支援している。その人の状況に合わせて水分摂取方法や食事形態なども工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に応じた声掛け、見守り、介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合った排泄パターン、習慣を把握してサインを見逃さないようにし、声掛けしてトイレでの排泄を促し、支援している。	個々の排泄パターンを排泄チェック表(尿・便)で把握し、排泄状況に応じた紙パンツやパットなどの介護用品を検討、使用し排泄を支援している。利用者の行動やしぐさから、声掛けや誘導のタイミングをはかり、無理じいしない対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を探り、飲み物、食事、運動、服薬の工夫により便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミング、体調に合わせた声掛けや雰囲気作りをし、無理強いせず、少しでも気持ち良く入って頂けるように努めている。	入浴日を特に設けず、体調や希望に合わせていつでも利用可能となっている。概ね週2～3回の入浴が楽しめるよう入浴チェック表で確認している。浴槽は個浴だが洗い場は広く複数での入浴も可能。入浴剤を変え心地よく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況や体調などを理解して、安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的を理解し、副作用などのリスクがないか、見逃さないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の収穫、食事作り、洗濯物や犬の散歩、テレビや趣味など、生活歴や経験、力を活かせる場を作るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天気などに合わせながら、外出や外気浴、犬の散歩などを行っている。季節を感じられるような外出も企画している。ご家族との外出や外泊される方の支援も行っている。	体調や天候に合わせた散歩が日常的に行われている。施設の愛犬とのふれあいや散歩は地域の方との会話もはずみ良い癒しの時間となっている。車2台を利用して初詣、桜花見、ぶどう・なし狩り、紅葉狩り等が計画・実行され好評である。また、利用者の希望にあわせた外食など外出を楽しむ支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の力や希望に応じてお金を所持される方もおられる。ご家族にも、お金を所持する大切さについても理解して頂けるようお話している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望やお力に合わせて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度、温度の調節や換気等、入居者様の様子を見ながら配慮している。季節を感じて頂けるような空間も工夫している。	大きな窓から光彩がふりそそぎ明るくゆったりしたリビングには外出時の写真が飾られ、温度・湿度・換気が配慮されている。また、利用者の状況に合わせて椅子やソファの配置替をしている。床の間付き10畳の小上がりの和室は冬はこたつでくつろぐことができる。リビングからの家庭菜園や田園の眺めは季節の移ろいを感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にはこたつ、テレビがあり、リビングにもテレビやソファを設置し、思い思いに過ごして頂けるような空間を作っている。状況に応じて模様替えも行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や物、お好みの物や思い出の物をご家族の協力を得ながら、ご本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	明るく開放感のある居室には、エアコン、カーテンが用意されており、利用者は使い慣れたベッドやタンス、家族写真を持ちこみ、思い思いの居室のしつらえが行なわれている。季節ごとにご家族が衣替えを行うなど居心地よい居室となるよう支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂には、分かりやすく看板を作り付け、読書がしたい方には本コーナーを作り、その時の状況に応じて、一人ひとりの力を活かし自立して頂けるような環境作りに努めている。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホームときわ木の里

作成日： 令和 2年 1月 9日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	職員間で個々の差がある。スキルアップを目指していきたい。	身体拘束についてや看取りケアなど、課題に合わせて事業所内研修や外部評価への研修に参加する。	職員に合わせた研修をピックアップし、積極的に参加してもらう。	12ヶ月
2	13	様々な災害を想定した訓練が行われていない。	火災訓練だけではなく、地震災害や水害等についての共通理解をもつ。	地震災害や洪水災害が頻繁にあるという事を意識し、洪水ハザードマップ等の把握に努める。定期的に訓練を行い、いざという時に備える。	12ヶ月
3	3	運営推進会議にご家族の参加率が良くないので、参加して頂く事でご家族の思いや声を上げて頂きたい。	参加して頂く事によって、取り組みの理解やご協力が得られ、ご家族と共に一体となり、またお力をお借りし支援していきたい。	運営推進会議のご案内を案内状だけでなく口頭でも行い、また議事録も参加された方だけではなく、皆さんにお渡しする。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。